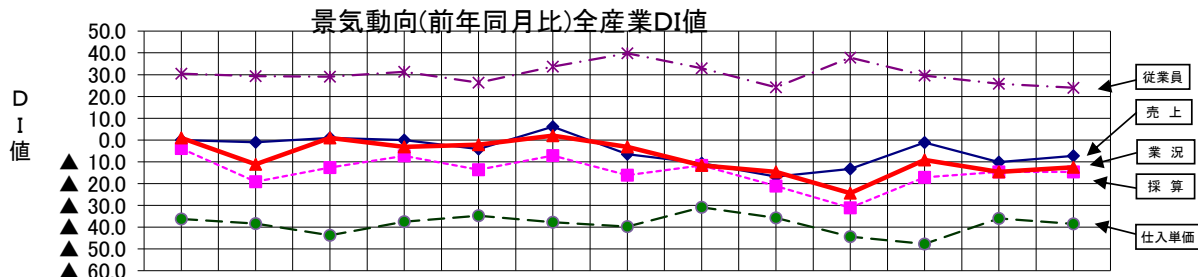


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 6月分

【6月の概要】景況観は横ばい、先行きは売上、採算とも引き続き慎重な見通し

5月の業況判断に比べると、売上D I、業況D Iともにマイナス幅が減少し、採算D Iについては変動がなく、従業員D Iのプラス幅は増加した。一方、仕入単価D Iのマイナス幅が増加しており、売上の減少、原材料・資材など仕入単価の上昇、人件費などのコスト増が幅広い業種に影響を及ぼしている。

先行きについては、5月に比べ、売上D Iがマイナスに転じ、採算D Iはマイナス幅が増加した。業況D Iはプラス幅が若干増加し、仕入単価D Iはマイナス幅が改善され、従業員D Iはプラス幅が増加した。売上、採算面の悪化が懸念され、引き続き慎重な見通しとなっている。



	2018年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	2019年6月
売上	0.0	▲ 1.0	1.0	0.0	▲ 4.2	6.1	▲ 6.5	▲ 10.6	▲ 16.8	▲ 13.3	▲ 1.1	▲ 10.1	▲ 7.3
採算	▲ 3.9	▲ 19.2	▲ 12.6	▲ 7.3	▲ 13.7	▲ 7.1	▲ 16.1	▲ 11.7	▲ 21.1	▲ 31.1	▲ 17.1	▲ 14.6	▲ 14.6
業況	1.0	▲ 11.1	1.0	▲ 3.1	▲ 2.1	2.0	▲ 3.2	▲ 11.7	▲ 14.7	▲ 24.4	▲ 9.1	▲ 14.6	▲ 12.5
仕入単価	▲ 36.3	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 34.7	▲ 37.8	▲ 39.8	▲ 30.9	▲ 35.8	▲ 44.4	▲ 47.7	▲ 36.0	▲ 38.5
従業員	30.4	29.3	29.1	31.3	26.3	33.7	39.8	33.0	24.2	37.8	29.6	25.8	24.0

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上D Iは2.8ポイント、業況D Iは2.1ポイント改善に転じたが、採算D Iは前月と変わらず、仕入単価D Iは2.5ポイントマイナス幅が増加し、従業員D Iは1.8ポイント改善した。

全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
4月	3.4	▲ 9.1	▲ 11.4	▲ 40.9	37.5
5月	1.1	▲ 5.6	▲ 9.0	▲ 41.6	33.7
6月	▲ 3.1	▲ 10.4	▲ 8.3	▲ 35.4	27.1

先行き見通しでは、売上D Iがマイナス3.1ポイントに転じた。採算D Iは4.8ポイントマイナス幅が増加し、業況D Iは0.7ポイントマイナス幅が減少した。一方、仕入単価D Iは6.2ポイントマイナス幅が減少し、従業員D Iは6.6ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	管工事	人件費の増加と、外注費の高騰が収益を圧迫する要因となっている。
	塗装	工事単価は上がっているものの、原材料費、人件費ともに増加している。
製造業	化学製品	売上が下落基調にある。海外市況の影響を受け売上数量、単価ともに悪化傾向である。
	機械器具	退職者の補充が十分にできない。人材確保が難しい状況となっている。
卸売業	繊維製品	売上の減少傾向が続いており、経費の削減により対応している。
	食品	原材料が値上がりしているが、価格転嫁ができていない。今後もこの傾向は続くと思われる。利益率を圧迫している。
小売業	食品	原材料、包装資材等の値上げが続いており、商品価格を上げざるを得ない。
サービス業	ソフトウェア	軽減税率制度の開始に向けて、各社のシステム対応を昨年からの提案していたが、ようやく受注が開始された。
	運輸	働き方改革に伴う外注経費の増加が予想される。
	ホテル	インバウンドの取り込みが功を奏し、収益が向上した。